

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第53号(20131115)

発行 竹田幸男



映像協会撮影会開催

11月24日(日)服部緑地で「日本民家集落博物館」を中心にした撮影会を行いました。11人(同好会から4人)が参加し、小春日和の好天に恵まれ、思い思いの被写体に向かって撮影を進めていました。昼休みにはカメラ談義、ノウハウの交流も弾みました。



映像協会忘年会開催

12月1日(日)寝屋川市駅前、がんこで開催、12時に開宴、持ち寄り品の抽選にはビデオカメラ、デジタルカメラなどの出品があり、じゃんけんが白熱しました。

平成25年11月例会

例会の窓

日時 平成25年11月15日(金)

13:30～16:30

場所 寝屋川市民活動センター
4階 ワーキングスペース

出席者：天野 新井 竹下 竹田 田淵 富田

(50音順・敬称略)欠席者：4名

例会次第

1. 各会員の最近の活動状況・情報交換
2. 報告・連絡・協議事項
 - (1) NVC Monthly 11月記事筆者の件(竹田)
 - (2) 大阪アマチュア映像祭 10/20(日)の結果

- ・今回は新井さん・竹田さんの2作が寝屋川市映像協会から出品された。府下9映像団体からの18作品が映写され、会場はほぼ満員の盛況であった。

(3) 市民文化祭映像作品発表会 11/2(土)の結果

- ・9:30に会員が集合、作品は10:30より3回映写、第1回が最も入場者が多かった。1作目に第2回文化連盟展での民舞の舞台演技を特集した「民舞の競演」を映写したので、第2回の始めも座る所が無いくらい混んでいたが民舞の作品が終わったとたん、団体で出て行った。

(4) 市民活動センターふれあいフェスタ11/9(土)の結果

- ・ロッカールームの作品映写も、ワーキングスペースでの映像図書館も、参加者は少なかったが、参加してくれた人には強い印象を与えたと思う。

(5) 撮影会について

- ・実施日:11月24日(日) 雨天の時は11月27日(水)
- 場 所:服部緑地公園 地下鉄御堂筋線「緑地公園」で下車
- 集合時間:緑地公園駅プラットホームで10時
- 昼 食:各自弁当持参
- ・次はどうするか(26年春?)何か食べに行くことも考えたい。

(6) 今年の忘年会

- ・日 時 12月1日(日) 11時40分集合 12時開宴 14時30分終宴
- ・場 所 寝屋川市駅前 がんこ
- ・会 費 4,500円

(7) 映像フェスティバルは来年5月31日(土)

- ・3月にはプログラムを決定するので、来年1・2月には作品を映写して検討する。各人作品の準備をお願いする。

(8) 同好会ビデオ作品発表会

- ・26年秋~27年春

3. 映写・合評

(1) 寝屋川囲碁将棋街づくりの会 囲碁将棋教室 新井さん 10分

- ・前回17分あったのが10分になって鑑賞しやすくなった。
- ・人工音声は大分良くなったが、一部アクセントなど課題もある。

(2) 第4回 住吉神社囲碁将棋まつり 新井さん 30分

- ・主催者用の行事記録で、作品ではない。
- ・作品とするには、挨拶やアナウンス部分などを縮める工夫をして10分ぐらいにしたい。

(3) 紅葉を求めて 南禅寺から哲学の道 竹田さん 8分

- ・ 作品としてでなく B G V として制作した。ストーリーは無く、初めから見なくてもわかるようにタイトルと作者は画面下方に小さく始めから終わりまで入れてみた。展示会場の B G M にも使えるように静かな音楽だけでナレーションはない。

4 . 会員の当面する問題点質疑応答

5 . 来月の開催日 (1 2 / 1 3)、1 月は 1 / 1 0 (第 2 金)

- ・ 来月開催時午前 9 : 3 0 ~ は対象者向けに編集講習会を行う。

6 . 次回のカメラ当番 (竹田)



「インクライン 琵琶湖疏水物語」 制作余談

竹田幸男

この作品は平成 2 4 年の制作、第 8 回寝屋川映像フェスティバル、同好会の第 6 回ビデオ作品発表会、そして平成 2 5 年の第 1 7 回大阪アマチュア映像祭に出品した。

この作品の制作は今回が最初ではなく、実は 3 8 年前、昭和 5 0 年に、ほぼ同じ内容の、同名の作品を 8 ミリフィルムで制作している。当時の映写時間は 1 6 分、音声はフィルムと別のオープンリールテープとの同期という方式。8 ミリフィルムなので色々な制約があり、今のようなパソコンでの編集など想像も出来ない時代、編集はカットつなぎで、トランジションなど全く望めない時代だった。8 ミリ映像作品として、自分ではそれなりのものができたと思っていたが、今のようなビデオ、デジタル、ハイビジョン、ノンリニア編集、という趨勢の中で、やり残したものが残っていた、という思いが強く湧いてきて、今回再挑戦した次第である。

京都の東山から山科に向かう旧東海道の蹴上の坂、その坂に沿ってインクラインがある。急傾斜の坂には幅の広いレールが敷かれ、レールには車輪の付いた台車が乗せられ、台車には舟が乗せられている。京都に生まれ、育った私には、それはごく見慣れた風景であり、今は動かない台車が、曾てはワイヤに引かれて坂をゆっくりと上下しているのを見たような記憶がある。市内から山科に越した後は、大津から幾つかのトンネルを経て山腹を悠々と流れる琵琶湖疏

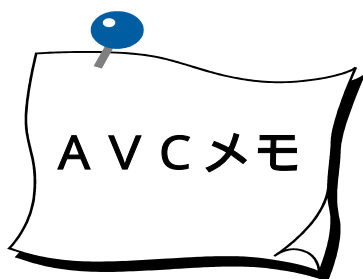
水は格好の散策道だった。

再挑戦を思い立ってから10年は経つだろうか。最初DVカメラの4:3で撮影を始めたが、ハイビジョンカメラが出現して、やはりこれはハイビジョンだと思い直し、テープを捨てて再撮影した。完成まで、通った回数は数え切れない。

8ミリフィルムで製作した当時ラストシーンに据えた、山の上から京都市内を俯瞰するシーンは、晩秋の寒い夕日の中、冷気をこらえ、震えながら若王子の山中から撮った記憶がある。今回も同じ場所を探したが、灌木が茂ってしまい、市内を俯瞰できる場所が無くなっていた。後日將軍塚の山上に、思いに合った良い場所を見つけ、これが今のラストシーンとなっている。

私の幼い頃、父は良く「京都には昔偉い人が居たんだよ」と言っていた。その偉い人とは、明治の昔、この琵琶湖疏水を作りあげた田辺朔郎博士のこと、その頃でも、既に何十年も昔の話だった。明治政府お抱えの外人技師に、当時の日本の技術で、こんな大工事ができるわけが無い、と断言されながらやり遂げた、それほど古い京都人には強い印象を与えた事業であったのだろう。「偉い人」の話は心の底に残り、技術という仕事に対する憧れ、長じて私が技術者を志望する原点にもなったのかもしれない、と今では思っている。

「京都の人々は、誇りを持って、明治の昔、科学技術を人々の幸福に、世の発展に役立てようと、強い意志と努力で困難に立ち向かい、この大きな夢に情熱を捧げた人たちのことを、熱っぽいまなざしで語ってくれるに違いないのである。」という最後のナレーションは、曾ての父の言葉に、先達に対する私の思いを重ねたものに他ならない。



テープとメモリーとの編集時の キャプチャ方法の違い

竹田 幸男

今までテープを使ったカメラで撮影し、編集していた方が、そのカメラがハイビジョンになったとたんに、テープの代わりにメモリーやカメラ内蔵メモリーを使うことになって、最も大きい変化は、編集時のキャプチャ方法であろうと思います。

テープの場合は、撮影したテープを、カメラなり、ビデオデッキに装着して

再生し、I E E E 1 3 9 4 コードでパソコンへ入力して編集ソフトを使って再生データをA V I ファイルに変換してパソコン側のハードディスクに記憶させることでキャプチャーができました。カメラなりビデオデッキで再生するので、キャプチャーは、撮影に要した時間と同じ長さが必要（1時間テープ一杯に撮影した撮影データのキャプチャーには1時間必要）で、これが編集の時の待ち時間となっていました。

メモリーなり、内蔵メモリーを使うカメラは、この変換を撮影時にカメラの中で行って、映像ファイルを作ってしまう。だからキャプチャーの時に変換の時間は要りません。撮影が終わったらカメラからメモリーカードを取り出してパソコンに装着し、メモリーからパソコン側のハードディスクなどにファイルを転送します。カメラ内蔵メモリーを使って撮影した場合はU S B コードでカメラとパソコンを接続してファイルを転送します。この転送には、ある程度時間が必要ですが、これはテープから取り込むときにファイルの作成をしているのとは違って、既にできているファイルを単に転送するだけですから、パソコンの性能にも依りますが、撮影時間に比べて非常に短い時間で終わります。

テープの場合、キャプチャーするときに、テープの最初から終わりまで1つのファイルにするか、または撮影ごとの映像（シャッターボタンを押して撮影を開始してから、再びシャッターボタンを押して撮影を止めるまでの映像）単位のファイルを作るかは、編集ソフトで選択できますが、メモリーの場合はシャッターボタンを押して撮影を開始してから、再びシャッターボタンを押して撮影を止めるまでの映像ごとに独立したファイルができています。3秒の撮影でも、3分の連続撮影でも、それぞれ1つのファイルとなります。テープの場合と編集の時の操作が変わります。

また今のメモリーの内部のデータですが、M P E G 形式のファイル形式は比較的単純ですがA V C H D 形式のファイルは複雑なツリー状のファイル構造になっており、最終的には「S T R E A M」のフォルダの下にある「00000.M T S」から始まる通し番号の付いたファイルが映像ファイルになります。

キャプチャーする場合、この「. M T S」の付いたファイルだけをパソコンにコピーする方がいますが、メモリーに記録されたツリー状のファイルすべてをパソコンにコピーすることをお勧めします。というのは、この「. M T S」の付いたファイルだけをコピーすると、後でメモリーに映像ファイルを送り返してカメラで再生しようとしても再生できません。カメラでの再生にはツリー状のファイル一式に含まれた各種のファイルが必要です。またこれらのファイルが無いと、長い時間連続して撮影したときなど、ファイルが大きくなったときに映像ファイルが分割され、編集のとき分割されたファイルをつないでタイムラインに入れても、分割された部分で音が途切れてしまいます。 ■